

まちの名に歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

いけのどう
池堂 江戸時代、私市の池堂から、森の加賀田へ水を引いていたため、森は私市に二斗五升のお米を毎年納めていました。このことは享保13年(1728年)の池堂池工事の際に、森と私市が交わした証文に残されています。
 また、池堂という名前から、ここにはお堂のようなものがあつたのかもしれない。



たにおく
谷奥 獅子窟寺が建っている一帯を谷奥といいます。私市と森からは、山の中にあたり、谷の奥に立派な寺院が建っていることから付けられたのでしょう。そのため、谷奥上覚・谷奥大門原・谷奥狐谷・谷奥狸谷など、獅子窟寺の寺域と思われる小字には谷奥が付いています。

いわふね
磐船 磐船神社一帯を磐船と言ひ、物部氏の先祖である饒速日命が、磐船に乗って哮ヶ峰に天降ったという神話があります。



磐船神社

現在哮ヶ峰は、ほしだ園地のクライミングウォールとなっており、磐船は、磐船神社のご神体と言われています。この巨石には「加藤肥後守」と彫り込まれており、江戸時代初期、大坂城を再建するとき、この巨石を石垣として使おうとしました。しかし、石工が岩を割ろうとしたところ、岩から血が流れ出たため、皆が恐ろしがってそのまま放置されたという言い伝えがあります。



加藤肥後守拓本

うめのき 梅ノ木



「石清水八幡宮」
石灯笼

私市から磐船街道を登っていくと、天野川の西岸にほしだ園地の散歩道が続き、それが途切れる所が、昔の石切り場の跡です。ここから左に大きくカーブする坂の上がり際、道の左側に「石清水八幡宮」と彫った石灯籠があり、その横にかつて梅の古木がありました。

毎年9月15日、石清水八幡宮の放生会(現在では石清水祭)に、私市の人々が、御前弘神人として笏と共に、この梅の枝を持って道を払いつつ行列の先頭を歩きます。

この梅の木については、いろいろな伝承があります。

昔、神功皇后が天王(現在の京田辺市)から大和に行く途中に、磐船神社の手前で休憩して食事を取った後、皇后が捨てた梅干の種が芽を出し、立派な木になったという言い伝えがあります。また一方で、宇佐



御前弘神人の様子

八幡から山城へ八幡様をお送りしたときに、この街道端で休憩し、八幡宮までの道のりがあと少しになったので、杖にしていた梅の木を、地面に突き刺して行きました。その杖から芽吹いたのが、この梅の木だと言われています。